草原詩社

出版目録

（含　旧　草原詩社　　／　人間社×草原詩社コラボレーション企画）

定期刊行物他

詩誌　Lyric Jungle

詩を読み、詩人を楽しむための、2001 年関西発の詩誌。現在 26 号発行（2019 年 12 月現在）。平居謙編集・発行。2020 年、「第 3 次」Lyric　Jungle に突入。

月刊　新次元

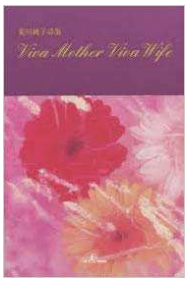
新しい詩の才能を発掘するために 2017 年 6 月に創刊されたｏｎ－ｌｉｎｅジャーナル。当初の予想をはるかに超えて月刊で展開中。時評、新作など読みごたえ満載。

草原通信

草原詩社から出される新しい詩集に挟み込まれる栞として 2020 年リニューアル創刊。各詩人の特集のほかに、これまでに出された注目の詩集を一覧することができる。

■好評既刊　　平居謙監修

荒川純子『Viva Mother Viva Wife』



2016 年２月　人間社×草原詩社　（本体 1500 円＋税）　『デパガの位置』（歴程新鋭賞）で注目された荒川純子が 13 年の時を経て放つ。家族と仕事。夫と子供。結婚とは。詩を書くこととは。誰もが避けて通ることの出来ない問題を真摯に激しく描き切る、すべての綺麗ごとを排したリアルな詩集。

同書栞より抜粋

荒川純子は与えられている。開かれている。あてがわれている。時に、切断されている。ＭＯＴＨＥＲとＷＩＦＥという仮面を外すとき。荒川の詩はよく思考され、よく感覚されている。制御され、拡散され。…（略）…いつの日か、荒川純子のヌードを見たいと思う。ＭＯＴＨＥＲでもなくＷＩＦＥでもなく一個の詩としての、なめらかな白く柔らかいことだまを。ことの葉を。茂り。光が黒い服を脱ぐ。乳房と恥丘が見える。　（長澤忍）

秋吉里実『悲しみの姿勢』

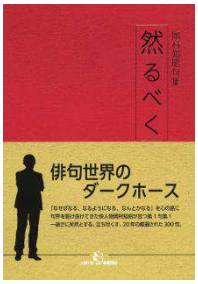
2016 年７月　人間社×草原詩社（本体 1500 円＋税）　ユーモラスに彩られた悲しみが満載。しなやかで真摯な言葉の選択。楽しく読み進めてゆくうちに、自分自身のまわりにある悲しみにも気がついてくる。そしてそれが愛おしくなる。地に足つけた生活詩の極北。絶賛の第１詩集。

同書栞より抜粋

- その詩は、光と影の相互作用により奥行きのある意味合いを生み出し、思索を誘うシリアス（厳粛）な表情を浮かべている。（村岡眞澄　詩人・彼方社社主）
- そうして生まれた多層的な「かなしみ」はただ涙を流すだけでなく、日常の淡々とした風景の中で子供への愛情や男への挑発やユーモアにまで変化していく。（山村由紀　詩誌「詩杜」編集人）
- 里実ちゃんは班日記が回ってくるのを楽しみに待っている様子でした。いつでも書くことに困らない、小さな事にも思いをめぐらせ、そのまま文章に書くことが出来たからです。

（清水小枝子　著者の小学校時代の恩師）

岡村知昭句集『然るべく』



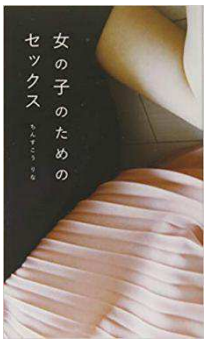
2016 年 11 月　　人間社×草原詩社　（本体 1500 円＋税）　詩誌「Lyric　Jungle」でおなじみのナンセンス系の詩とは一線を画す本格派俳人の誕生！　俳句を若くから始め、現在詩創作研究会にも足しげく通った努力の人岡村知昭の、待ちに待った第 1 句集。著者のシブイ近影も話題を呼んだ。

同書栞より抜粋

・その句柄は、平易な言葉を用ゐての、斬新で意表を突くもので、毎回楽しみにさせて頂いております。その特徴は、風景やものや人を見る目線が低く、しかもペーソスが有ることでせうか。自己撞着に陥る事なく、対象物も自己もさらりと捕らへる手腕は、特筆に値ひするでせう。
（中島夜汽車）

・痛覚。五感のうち、君の言語感覚は痛覚をイメージさせる。その感覚の細い水脈を通して幻想世界へとトリップする。痛みを纏った風景はより繊細で敏感な触手を書き手にもたらし、ズームアップされた事物を、よりビビッドにあたたかく包み込む。（佐孝石画）

ちんすこうりな『女の子のためのセックス』



2017 年８月　人間社×草原詩社　（本体 1500 円＋税）。　爽快なセックス宣言ともいえる第 1 詩集『青空オナニー』から 8 年。驚くほど成長した身体思想詩人・ちんすこうりなが満を持して放つ第 2 詩集。ほんとうの淋しさがここには存在する。刊行されるや否や、賛否両論の渦が巻いた話題作。

詩集評より

・自分は普段、詩集をまったく読まないし詩集についてこういうふうに書くことはないがちんすこうりなのこの詩集には俺のなかでそれだけの価値があったのだろう。このブログを読むような俺のことが好きな方は是非買って読んで欲しい。

（ブログ「ハローワークの再起」2017 年 7 月 31 日　馬野ミキ）

・死と生、性と生、分割とまじわり、これらが螺旋状に連なって時間が流れていく。作 者は、生の重さを持て余しつつ、諦念ではない冷静さを持つ女の子たちの、おそらく は、自分や他者へ向かう怒りと紙一重の何かを捕まえているようだ。攻撃ではなく愛の 姿に近いが受容ではなく、私には、苛立ちや姿の見えない怒りに近いように感じられ る。怒りの向けどころがなくて絶望しないために、自分で自分を抱きしめるための詩集 なのかもしれない。

（新次元 2 号　2017 年 7 月　ヤリタミサコ）

・少女の「軽やかさ」と引き換えにちんすこうりなが身に着けたもの。それは「得体の知れない自由思想」だった。（「詩客」2017 年 3 月 5 日　平居謙）

まるらおこ『つかのまの童話』

2018 年12.月　人間社×草原詩社　（本体 1500 円＋税）　死という重い主題に向き合った作品を随所にちりばめながらも、軽いユーモア感が読後に残る不思議。「つかのまの童話」の如く、日常から飛び出した一瞬の夢を見せてくれる作品群。からりと揚がったサクサク感と、満足のボリューム！

「月刊　新次元 17 号」（2018 年 10 月 25 日号）特集より

・霧のように、あるいは虹のように、ふと現れて消えてしまう「束の間の童話」。それこそが 詩でなくて何だろう。「詩」とはそれほどに、捉えがたいものなのだ。 詩集『つかのまの童話』は、日常生活の中にふと現れた空隙、破れ目から立ち上る「詩」を つかみ取り、言葉に結晶させようとする。（大木潤子）

・この詩集を読み終えて、孤独を強く感じることと、自分と自分以外の存在とのかかわりを愛 おしく思うことは同じなのだと、あらためて気づかされました。そしてまた励まされた気持ち になりました。　（折口立仁）

・本来、日常のごく そばにあるはずの“死”は遠くでもなく近くでもないわたしたちのそばにあるのだと気づかせて くれる。（岩村美保子）

前田珈乱『風おどる』

2019 年５月　人間社×草原詩社　（本体 1500 円＋税）　令和の時代がやって来た。新時代初日に刊行された記念すべき詩集。中国哲学研究者である著者の、底知れぬ語彙と若さとがミックスされた新しい時代の新しい視覚詩がここに誕生した。凝縮と拡散の妙を体験せよ！

詩集評より

・彼のいう「宇宙」は空の果てにあるし自分の体内にもあるし珈琲のなかにもあり、それは優劣をつけるものではないのだ。（同書栞より　山村由紀）

・詩とは何かについての個人的定義から始まるこの詩集は、端正な言葉づかいに終始しながら、倫理性と刹那性と唯美性を入り混じらせつつ、最初から最後まで一本の筋の通った一冊になっている。（同書栞より　湊圭史）

・この詩集では、風は物理的に吹く風という意味のほかに、その時 代の社会の潮流という意味や、生き物に生命力を与えるものという意味や、運命を 左右する物事の流れという意味なども有していて、重要なモチーフとなっている。 また、『風おどる』というタイトルには、愛と勇気を持ってどんな時代の風の中で も軽やかに踊っていたいという願いや、自らの詩集で旋風を起こしたいという願い がこめられていると思われる。

（「月刊　新次元 24 号」2019 年 5 月より　マルコムシャバスキー）

平居謙『燃える樹々（JUJU）』第二〇回小野十三郎賞最終候補

2019 年６月刊行　定価（本体 1,500 円＋税）　＊第 21 回　小野十三郎賞最終候補作。『太陽のエレジー』から７年。詩は魂の在処を探る方法。失われた魂への鎮魂と新しい世界創出のための第７詩集。謎と抒情が雑居する。解説に細見和之。栞に佐藤義雄・毛利憲一・ヤリタミサコ・岩佐純子。

詩集評より

・一九八〇年代に学生時代を過ごした私たちは、〈詩の黄金時代〉の記憶のなかで詩を書きはじめた。

そこには同時に、そこから自分たちは放逐されているという感覚が必然的にともなっていた。私の場合は一九七〇年前後の詩の記憶が大きかったが、平居の場合は、萩原恭次郎が活躍していた大正時代後半から昭和初期にかけての時代の記憶も大きかったかもしれない。

（細見和之同書解説より）

・謙の詩は、いつもリズミカルで心地よい。ことばは奔放に発展し、そっち行く？と私を驚かせてくれる。（同書栞より　岩佐純子）

・著者はきっと見えない自然を感じている。それは人工的なものではなくて、きわめ て自然らしい自然。この詩に登場する植物、動物、蟲、火、風 ・・・。人間の自己中心 的な視覚では辿り着けない表現が、全く自然な切り口で広げられている。

（「月刊　新次元」25 号　2019 年 6 月 30 日　しじみ）

■Coming　Soon!　近刊

川鍋さく詩集『湖畔のリリー』

川鍋さく詩集
『湖畔のリリー』

Coming

Soon!

2020 年４月刊行予定。定価（本体 1,500 円＋税）　静かに湖畔に佇む生。あくまで詩の原点を一途に見据えた川鍋さく待望の第１詩集。読み進めると、純粋なイメージに加えて、悪戯っぽいまなざしや、トンデモ発想なども見えてきて、神様さえも困ってしまうこと間違いなしの、必読の書。

詩集評より

・優れた詩の多くがそうであるように、川鍋さくの詩はストーリーに頼ることがない。ストーリーが描かれているにせよそれは、単なる枠組みに過ぎない。難しい言葉は使われていないのに読んでいて途惑うことも珍しくない。独特の感覚が滲み出ていて、それ自体が詩を形成している。その感覚に馴染んでゆくことが彼女の詩を読むという行為である。（同書解説より　平居謙）

・彼女のポエジーの真骨頂は、単にそれら情緒的なファクターに導かれる作品ではない。どこかユーモラスで、とるに足らない存在を介し、彼女のコトバは自由に弾むように息づいているではないか。

（「草原通信　1」より　福田知子）

・等身大の身体感覚のなかに、それをはるかに凌駕する自然や宇宙といった途方もない存在を、何の躊躇もなくインストールする。いかに仮想現実的なイメージであっても、まるで実写のように振る舞わせて、読む者を強烈に引き込んでいく。それを可能にするのは、まさに川鍋自身による「引力」だ。（「月刊　新次元　」35 号より　加勢健一）

畑章夫『猫的平和』

畑章夫詩集
『猫的平和』

Coming

Soon!

2020 年４月刊行予定。定価（本体 1,500 円＋税）　イデオロギーに固まった社会詩でもなく、偏狭な視線によってなされた生活詩でもない。地に足をつけた「生活思想詩」の成果がここにある。

詩集評より

・畑章夫は、豊かさのむこうにある事実を、見て見ぬふりをしてはならない現実を、見続ける。畑章夫は、多くの犠牲と絶望のうえに手に入れたものが、どのようなものでなければならないか、真の平和、真の幸福とはなにか、を問いつづける。（「草原通信２」より　松本衆司）

・この詩集は畑さんらしくない鋭さがある。けれども畑さんらしい柔らかさもある。詩を読み進めてゆくと目を背けたくなるような現実を捉え、生きることとは何か、なぜ私は生きているのか、という疑問を突きつけられ、いきものの命や身近にある歴史からヒントを得ながら核心を探ることができる詩に出会うことができる。（同　しじみ）

・日常生活を営む中で、私たちはどうしても日々起こることをどれも当たり前と考えるようになってしまう。更に日々のペースの速さ、変化の速さについていくことに精一杯になって、今行っていること、起きていることに関心を払わなくなっていく。そんな中で畑さんの作品は生活を丁寧に描くことで生活そのものをもう一度ちゃんと見るようにさせてくれる。

（「月刊　新次元 35 号」タニグチイジー）

続刊予定

木澤豊『燃える街／羊のいる場所』

木澤豊詩集
『燃える街／羊のいる場所』

今夏

刊行予定！

2020 年夏刊行予定。予価（本体 2,000 円＋税）　『かもめホテル』以来６年ぶりの著者渾身の第 10 詩集。自分自身の存在の意味と記憶とを問う。力強いイメージの第１部「いまから書かれる海」と柔らかな第２部「羊のいる場所」が織りなす、芳醇な木澤ワールドを堪能して欲しいと願う。

春野たんぽぽ『赤い表札』

春野たんぽぽ詩集
『赤い表札』

今夏

刊行予定！

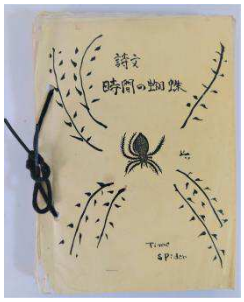
2020 年夏刊行予定。予価（本体 2,000 円＋税）　生きるとこを問い、死を見つめ続けた著者が、自身のルーツを直視する。長野ー大阪ー東京とあたかも名前の蒲公英の綿毛のように「漂流」し続ける奇才女流詩人の、詩集の王道をゆく第 1 詩集。ここに満載される静かな絶叫に耳を傾けよ読者！

平居謙（草原詩社の詩集　監修者）のプロフィル&個人詩集

平居謙プロフィル

1961年5月京都生まれ。詩人。京都教育大教育学部学国文学科・関西学院大学大学院に学ぶ。甲南女子高校教諭・名古屋経済大学講師を経て現在平安女学院大学国際観光学部教授。批評に『異界の冒険者たち』（朝文社）『高橋新吉研究』（思潮社）『村上春樹「1Q84」大研究』（データハウス）、アニメ研究書に『学者たちが本気で考えたワンピース』（データハウス）等多方面に渡って執筆。代表論文「萩原恭次郎『死刑宣告』研究」（博士論文）など。詩集は以下の通り。＊印は草原詩社

0　『時間の蜘蛛』



1985年3月。私家版の第「0」詩集。習作期の作品集成とも言える1冊で、京都教育大学時代に書きためられた作品群。手書き本文をコピーで連ねたもので、和綴じ簡易製本。数十部作製。後に明治大学文学研究会の山井哲に「メルヘン」と呼ばれたが、作成当時は硬派のつもりで書いた作品。

1　『行け行けタクティクス』

1990年6月　白地社刊　同社の新鋭詩人叢書の1冊として出されたデビュー作。高橋新吉に心酔し、吉増剛造に憧れて詩を書き始めた若い詩人の第1放射線。大学卒業後、京都―東京―千葉―大阪を放浪し「暦象」『大阪詩集』「ブラケット」等に収録した記念碑的作品を収録。異言としての言語。

2　『無国籍詩集　アニマルハウスだよ！　絶叫雑技篇』

1996 年 12 月　思潮社刊。装本　林哲夫。栞　吉増剛造。詩の朗読運動の結実としての、著者渾身の第 2 詩集。大阪ミナミはアメリカ村の雑貨屋でも販売されるなど、極めて一部の熱狂的支持を得た。著者の代表作の一つともいうべき詩集で、大判の誌面からは零れるエネルギーが放射される。

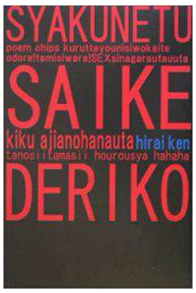
3　『基督の店』

2001 年　ミッドナイトプレス刊。樋口えみこの個人紙「キテ」や関西の元気な詩誌「あにまるラヴ。」などに発表された詩篇をまとめたコンパクトな 1 冊。著者の 21 世紀を彩る最初の詩集である。これ以降、著者の詩集は現在まで、自らが代表を務める草原詩社からのものに限定されている。

4　『春の弾丸』＊草原詩社

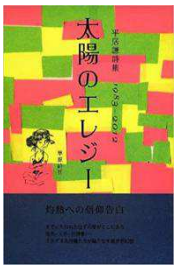
草原詩社 2004 年 3 月刊行　定価（本体 1,500 円＋税）　平居謙監修　トップランナーズ詩叢書②
ピンク色の紙面から吐き出される詩群は、これまでの著者との大きな乖離を感じさせる。静かな詩境に至ったのか？そう思った瞬間、読者はサイレンサー付きの小銃で狙撃されていたことを知るだろう。ドサっ。

5　『灼熱サイケデリ子』＊草原詩社



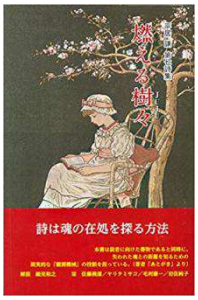
2005 年 3 月刊行　定価（本体 1,500 円＋税）　Hでサイケで何でもアリ。けれども心は殉愛路線。詩界のパワフルリーダー平居謙が 1 年ぶりに放つ詩集。1995 年から 2005 年までの間に出された詩集から抜け落ちていた傑作没作品集。読者必見。装本　山村由紀。

6　『太陽のエレジー』＊草原詩社



2012 年 6 月刊行　定価（本体 2,000 円＋税）
『灼熱サイケデリ子』以降の 6 年の沈黙を破って居謙が満を持して放つ第六詩集！1985 年から 2012 年までに蓄積された言葉が、さまざまな章に分けられ、怒涛の迫力を以て読者に届けられる。地霊を感じて言葉に解放する。風景論の新しい可能性への転換期となる、重要な詩集が今ここに。

7　『燃える樹々（ＪＵＪＵ）』＊　人間社×草原詩社



2019 年６月刊行　定価（本体 1,500 円＋税）　＊第 21 回　小野十三郎賞最終候補作。『太陽のエレジー』から７年。詩は魂の在処を探る方法。失われた魂への鎮魂と新しい世界創出のための第７詩集。謎と抒情が雑居する。解説に細見和之。栞に佐藤義雄・毛利憲一・ヤリタミサコ・岩佐純子。

2014 年までの出版物については次ページ以降の

旧草原詩社

BOOK リスト

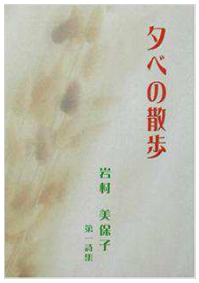
をご覧下さい。現在お取り扱いのできない書籍もありますが、ご注文いただければ、ご連絡させていただきます。

旧草原詩社

BOOK リスト

鮮烈デビュー詩集シリーズ　　監修　平居謙

1　『夕べの散歩』　岩村 美保子



2003 年 8 月刊行　定価（本体 1,500 円+税）　平居謙監修　鮮烈デビュー詩集シリーズ
谷川俊太郎研究者として名高い田原氏をしてうならせた「手触りのある抒情」。さわやかで物怖じしないストレートな言葉は、手垢にまみれた現代詩にはない新しい感動を読者に与えてくれることだろう。

2　『ロプロプ』　佐々本 果歩

2003 年 9 月刊行　定価（本体 1,500 円+税）　平居謙監修　鮮烈デビュー詩集シリーズ
解説文の中で三上寛は思わず「ああイイな」と叫んでいる。はちゃめちゃでどっきりでロプロプで超キュートなこの詩集。詩集刊行後、イヴェントシーンを大きく塗り替えることになった果歩の記念碑的詩集。

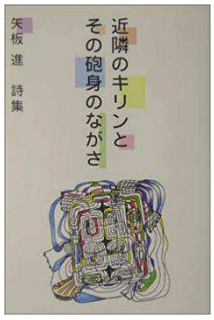
3　『H（アッシュ）』　冨岡 郁子

2004 年 3 月刊行　定価（本体 1,500 円+税）　平居謙監修　鮮烈デビュー詩集シリーズ
静にして情熱的。フランス文学の香りを放ちながらどこかすっとぼけた味を持つ気鋭・冨岡郁子の待望のデビュー詩集。在仏の彼女から、読者の心は遠隔操作されてしまう。

4　『美術館へ行こう』　河上 政也

2004 年 4 月刊行　定価（本体 1,500 円+税）　平居謙監修　鮮烈デビュー詩集シリーズ
細見和之はこの詩集を「気弱な男の、気丈な詩集」と言った。底に流れるのは、人間普遍の生きることの淋しさ。でも、読んでいてずばぬけて楽しい。ここまで高める技術を「気丈」というのかもしれない。

5『近隣のキリンとその砲身の長さ』　矢板 進



2004 年 10 月刊行　定価（本体 1,500 円+税）　平居謙監修　鮮烈デビュー詩集シリーズ⑤
テレビ画面で映し出されるテロや戦争の残虐なシーン。それに素直に危機感を覚えることのできないという危機感。歌人・魚村晋太郎をして「戦前詩」と言わしめた最現在を生きる感覚を見つめた詩集。

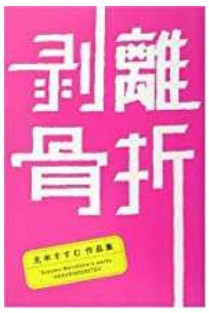
6『あたしと一緒の墓に入ろう』　網野 杏子

2004 年 10 月刊行　定価（本体 1,500 円＋税）　平居謙監修　鮮烈デビュー詩集シリーズ⑥
身体ごと世界と対峙する網野杏子の衝撃の第 1 詩集。人生のあらゆる苦悩を、破壊･粉砕･玉砕覚悟で走り出す新しい詩人と出会うのは今！金時鐘の名解説が、さらに本文の味を噴出してゆく。

7『硝子の眼／布の皮膚』　湊 圭史

2004 年 12 月刊行　定価（本体 1,500 円＋税）　平居謙監修　鮮烈デビュー詩集シリーズ⑦
ハードコアがやって来た！オーストラリア詩の新進の翻訳者・研究者である著者の、オリジナル作品集第 1 弾。一見戦後詩を思わせる硬質な言葉のその奥に、やわらかいやさしい心が隠されている。

8『剥離骨折』　丸米 すすむ



2005 年 6 月刊行　定価（本体 1,500 円＋税）　平居謙監修　鮮烈デビュー詩集シリーズ⑧
変幻自在の言葉を用いて読者を丸米ワールドへ誘い込む。あるときは墓掘人、またあるときは地球を俯瞰する魂そのものの形をとりながら、迫り来る言葉たちの前にたちすくむ感動を体験せよ！

9 『迷子放送』　イルボン

2006 年 8 月刊行　定価（本体 1,500 円+税）　平居謙監修　鮮烈デビュー詩集シリーズ⑨
パフォーマーとして、また新進の詩人として評価の高い、イルボンの待望の第一詩集。
小気味よいコトバの炸裂感と漂う哀愁。帯には「維新派」主宰の松本雄吉、解説ヤリタミサコ。

10 『Love Song』谷口-IZZY- 慎次

2007 年 11 月刊行　定価（本体 1,500 円+税）　待ちに待った“izzy” 谷口慎次の、超純情ラブソング集。僕と君のハチミツクローバーな世界。冒頭には谷川俊太郎の序詩がおかれているのは、三好達治の序詩を得て出発した谷川俊太郎を想起させる。鮮烈デビュー詩集シリーズ⑩

11 『微炭酸フライデー』　南原 魚人

2009 年 2 月刊行　定価（本体 1,500 円+税）
ついに魚人がやってきた。伝説の手作り冊子「言葉の殺め方」「ヨサブローの死臭」から選りすぐりの作品に書き下ろしを加えた。世界が歪む超新星のデビュー詩集。鮮烈デビュー詩集シリーズ⑪

12 『青空オナニー』　ちんすこうりな

2009 年 3 月刊行　定価（本体 1,500 円+税）
キュートでピュアでエロティックな詩集。題名からにじみ出る純水。一人のオンナノコの手によってなされた、世界がここまでの表現を世に送り出すとは、一体、世界に何が起こったのだろう。爆死必至の 1 冊。鮮烈デビュー詩集シリーズ⑫

13 『ぶひゃひゃひゃひゃ』　関根 悠介

2009 年 3 月刊行　定価（本体 1,500 円+税）　※第 2 回言語実験工房賞受賞詩集。
鮮烈デビュー詩集シリーズ⑬　上から見ても裏から覗いてもそこには人を食ったガランドウの世界が広がっている。世界の空虚と大胆に張り合う男。関根悠介、ホンモノである。

荒木時彦の本

1　『静かな祝祭ーパパゲーノとその後日談』　荒木 時彦

2006 年 5 月刊行　定価（本体 1,500 円+税）　和合亮一監修　究極現代詩叢書①　日常と遮断された世界を美しく描く荒木時彦が、自信作を引っさげて登場。モーツァル　ト『魔笛』を下敷きにして展開する複層構造で読者を魅了する。解説ではヤリタミサコが形而上詩の観点から解読に挑む。

2　『フォルマ、識閾、その歩行』　荒木 時彦

2008 年 10 月刊行　定価（本体 2,000 円+税）　「Lyric Jungle」「分裂機械」等の詩誌上で異彩を放つ形而上詩人・荒木時彦が放つ第 3 詩集。萩原健次郎とヤリタミサコのW批評付き。糸りにもの特殊内容に付き密売。

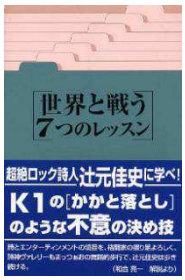
3　『〈非〉の徴候、およびマテリアについて』荒木 時彦

2009 年 8 月刊行　（頒価 2,000 円）　厳密な概念規定によって作り出される理論によっても詩は成立することを証明した小型爆弾的詩集。荒木時彦移籍直前の記念碑的作品。戦略的非売構想により地下水脈ルートでのみ販売された。

トップランナーズ叢書　全３巻

監修　平居謙

1　『世界と戦う７つのレッスン』　辻元 佳史



2003 年 11 月刊行　定価（本体 1,500 円+税）　平居謙監修　トップランナーズ詩叢書①
ライブに作品に、大活躍する辻元佳史の最新詩集。解説に和合亮一を迎えて若手の黄金伝説が生まれる。一見マニュアルブック風の本書を貫く精神は、頭脳硬化の現代詩への著者渾身のアンチテーゼだ。

2　『春の弾丸』　平居 謙

2004 年 3 月刊行　定価（本体 1,500 円+税）　平居謙監修　トップランナーズ詩叢書②
ピンク色の紙面から吐き出される詩群は、これまでの著者との大きな乖離を感じさせる。静かな詩境に至ったのか？そう思った瞬間、読者はサイレンサー付きの小銃で狙撃されていたことを知るだろう。ドサっ。

3　『青いペンの話』　三沢 宏行　※ Green Award for Poetry 受賞。

2004 年 3 月刊行　定価（本体 1,500 円+税）　平居謙監修 トップランナーズ詩叢書③
若い詩人の中でも、抜きん出た実力を示す三沢宏行。若き日の谷川俊太郎を思わせる静かな抒情は、新しい時代の夜明けを感じさせる。「オレが癒し系じゃ～」と帯文で自ら叫ぶふてぶてしさも新鮮。

単行本

『オリツバメ』　遠藤 志野

2004 年 11 月刊行　定価（本体 1,500 円+税）
若い世代にこんなにも肺活量の大きい、魅力的な詩を作る書き手がいたのか。萩原健次郎が装丁・作品チェックすべてを総合的にプロデュースする。大型新人登場の予感！

『城の町』　尾崎 与里子 ※アグネス詩人賞受賞

2004 年 9 月刊行　定価（本体 2,000 円+税）　単行詩集
アグネス詩人賞を受け、その力量を示した著者。受賞作品を一挙に集めた最新詩集。幻の「城の町」が、一読眼前に浮かび上がる。散文詩でしかなしえない沈潜した雰囲気を見事に作り上げる。

『空にからだの船、青く』　里都 潤弥

2004 年 12 月刊行　定価（本体 1,500 円+税）　軽いユーモアのライトバース。一見そんなふうにみえる里都潤弥の作品群は、読み通すうちに読者の心に、詩の形でしか伝えられない「問い」を投げかける。樋口えみこ監修。

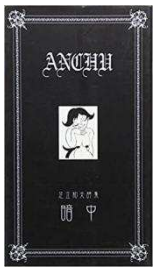
『野原のデッサン』　石川 和広

2005 年 9 月刊行　定価（本体 1,500 円＋税）　詩を求め探す苦悩が赤裸々に語られる中で、プロセスそのものが詩集に成り上がった。単なる詩の寄せ集めではなく、詩へと迫ろうとする魂の痕跡の記録。解説　野村喜和夫。

『春っぽい、』　水上 寿恵

2006 年 3 月刊行　定価（本体 1,500 円＋税）　単行詩集　主婦にして、同志社大学学生。その狭間で見えてくる日常世界のほころびと魅力をユーモラスに描き出す。春の詩に始まり、一巡りしてまた春。いつでも青春真っ只中にある作者の、会心の作品集。

『暗中』　足立和夫



2006 年 8 月刊行　定価（本体 1,500 円＋税）　目の前にのしかかる失業。その中で淡々と人生を眺める、落ち着いた筆致からは、かえって静かな悲哀が流れてくる。それにもかかわらず爽やかな不思議。粕谷栄市の解説を得て放つ、足立和夫待望の第 2 詩集。

『生まれて』樋口えみこ

2007 年 2 月刊行　定価（本体 1,500 円＋税）　横浜詩人賞を受賞し、詩のサイト「ぺんてか　言葉の処方箋」で若手詩人を盛り立てる樋口えみこが久々に放つ第 3 詩集。やわらかいけれど本音に限りなく近い言葉は、心をとっても晴れやかにしてくれる。

『幻歌』木澤豊

2007 年 11 月刊行　定価（本体 1,500 円＋税）　詩人であり宮澤賢治の稀に見る真摯な追究者でもある木澤豊の、待望の最新詩集。場所を問い、人を見つめる。現在自分はどこにいるのかという問いを読者に突きつけてくる。優しいいことばで書かれた怖ろしい詩篇たち。

『永遠さん』福島敦子

2008 年 12 月刊行　定価（本体 1,500 円＋税）　福島敦子の第 3 詩集。この世界に生きること。死ぬこと。「永遠」をめぐる問いの先に現れる少し間抜けた、青空みたいな「永遠さん」。読者の心にさりげなく沿う作品集。

『太陽と欲望』瀬川佳代子

2011 年 10 月刊行　定価（本体 2,000 円＋税）
テニスコート・太陽・８×４・マイケルジャクソン…世界のアイテムを吸い込むように躍動する体育会系詩人の誕生だ。爽やかさとエネルギー溢れる瀬川佳世子注目の第１詩集。

アンソロジー

『Lyric Jungle 10』　山村 由紀

2005 年10 月刊行　定価（本体1,200 円+税）　平居謙×山村由紀
鹿砦社で発行されていた人気の詩雑誌が、本拠地を草原詩社に移していよいよ新展開。記念の10 号は、りりじゃん詩人たちの、どアップ写真満載で、書き手のプライベートを知る絶好の一冊。詩集作りのパーフェクトマニュアルも特集。

『京都ダイナマイト！』平居謙

2007 年6 月刊行　定価（本体2,000 円+税）
ついに出た！ＪＲ京都駅から北を見上げれば京都タワーが立っている！と、同様に、我々の北側に、京都ダイナマイト！屹立する言葉は、永遠に爆発5 秒前の緊迫感覚を放射する。

『豊潤な孤独』　山村 由紀

2008 年1 月刊行　定価（本体1,500 円+税）　看護師である編者が長年かけて集めた、生と死とに向かい合う24 編の名作。草野心平・谷川俊太郎・嶮峨信之らが心を込めて記した生き様の記憶を、「医療」という切り口から読むことで、詩が斬新に読者の心に染み渡る。必読の書。

『Anthology2008』平居謙

2008 年 12 月刊行　定価（本体 2,000 円+税）　01 年から 08 年まで 7 年の「第 1 次りりじゃん」行動の総集編。多彩なゲストを迎え爆発寸前。第 2 次りりじゃんの刊行記念も兼ねている。少年漫画誌を思させる、ソフトでハードな内容と装丁。サトムネコーマの装本が光る。

『Lyric　Jungle　究極アンソロジー 2013』平居謙

2013 年 7 月　定価（本体 2000 円+税）
Lyric　Jungle　同人に各種講座生、実力派詩人を加えた未来詩への究極アンソロジー。
ヤリタミサコの挑発的な栞にも震撼せよ。